

兵庫県立美術館 2010年度コレクション展 I

特集展示 絵画の5つの部屋



白髪一雄《黄帝》

(1963年・山村コレクション 昭和61年度購入)

会場 兵庫県立美術館 1・2階常設展示室

主催 兵庫県立美術館

会期等 2010年3月27日(土)～7月4日(日)

休館日 月曜日(ただし5月3日(月)・4日(火)・5日(水)は開館、6日(木)は休館) ※会期中に一部展示替えを行います。
前期：3月27日(土)～5月16日(日)
後期：5月18日(火)～7月4日(日)

開館時間 午前10時～午後6時(入場は午後5時30分まで)
特別展開催中の金、土曜日は夜間開館 午後8時まで(入場は午後7時30分まで)ただし、6月4日(金)・5日(土)・11日(金)・12日(土)を除く

観覧料金

(3月31日までの料金。4月1日以降は下記のとおり変更予定です。)

一般 500(400)〈300〉円/大高生 400(320)〈240〉円/中小生 250(200)〈150〉円

※()・・・団体料金 〈 〉・・・特別展とのセット割引

※兵庫県内の小中生はココロンカードの提示により無料

※兵庫県内在住の65歳以上の方は一般料金の半額

※障害のある方とその介護の方1名は各観覧料金の半額

(4月1日以降(予定))

一般 500(400)〈300〉円/大学生 400(320)〈240〉円/高校生 250(200)〈150〉円

※()・・・団体料金 〈 〉・・・特別展とのセット割引

※中学生以下は無料

※65歳以上の方は一般料金の半額

※障害のある方とその介護の方1名は各観覧料金の半額

このプレスリリースについてのお問い合わせ

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

<http://www.artm.pref.hyogo.jp>

【取材・写真提供に関すること】 営業・広報グループ
TEL:078-262-0905 (直) FAX:078-262-0903

【企画内容に関すること】 学芸員 出原 均・遊免 寛子
TEL:078-262-0909 (直) FAX:078-262-0913

本展の概観および見どころ

- ・兵庫県立美術館では、年3回の展示替えを行っています。
- ・今年度最初のコレクション展は、「山村コレクション」を中心とする現代絵画を特集展示します。「絵画の5つの部屋」と題して章を5つ設定し、絵画を見る上での視点をそれぞれ提示しながら、その豊かな世界をご紹介します（「展示内容」をご参照ください）。
- ・その中の一章で、一昨年逝去された白髪一雄（1924-2008）の大作をまとめて展示します。
- ・他の展示室の作品とあわせ、総数は約150点です。

関連行事

- 中原佑介館長による講演会「コレクションにちなんで（仮称）」
3月27日（土）午後2時～3時
ミュージアムホール 聴講無料
- 学芸員によるギャラリートーク
4月17日（土）、6月12日（土）いずれも午後3時～4時（約1時間）
エントランスホールに集合 要観覧券
- 学芸員によるレクチャー「現代絵画の見所」
5月30日（日）午後3時30分～4時30分
レクチャールーム 聴講無料
- こどものイベント「アートであそぼ！」
4月24日（土）午前11時～午後2時
エントランスホールにて随時 参加費無料
お問合せ TEL 078-262-0908 [こどものイベント係]
- ミュージアム・ボランティアによるガイドツアー
会期中の金・土・日曜日 いずれも午後1時から（約45分）
1階、2階、屋外に分けて、コレクション展の見どころをご案内します。
1階常設展示室、2階常設展示室、屋外のいずれかで実施
エントランスホールに集合 参加無料、ただし1階、2階の場合は観覧券が必要

特集展示「絵画の5つの部屋」（展示棟1階 展示室1～4）

1章 近代と現代をつなぐもの

現代絵画は、伝統的な絵画や、近代の絵画からも、かなり変わってきていると言われることがあります。でも、たとえば、近代絵画と比較すると、構図や手法などで共通するところがあるのも確かです。ここでは、過去と現在が複雑につながっていることを確認します。（出品点数約10点）



横尾忠則《受胎された靈感》（1991年）

2章 絵画の境界

絵画の「図」とその背景である「地」との関係、絵画とその周りの壁との関係など、内と外を分かち境界は、絵画を見る上で、しばしば重要な役割を果たすことがあります。絵画の中心部分だけでなく、このような境界や縁に目を向けて、絵画全体を捉えていただくコーナーです。（出品点数約10点）



菅井汲《鼠色》
（1962年）



菅井汲《ハイウェイの朝》
（1965年）

3章 かたちと空間

画面の奥行き表現を抑制して、かたちを作ることに主眼を置いたタイプの作品がある一方で、逆に、空間のほうを複雑に構築するタイプの作品もあります。2つのタイプを見ながら、絵画の表現の大きな広がりを確認します。(出品点数約 10 点)



津高和一 《像》
(1971 年・山村コレクション)



横尾忠則 《現実と非現実の間》
(1994 年)

4章 足は幾百の表情を生む

この部屋では、具体美術協会に属していた作家、白髪一雄（1924–2008）の作品を取り上げます。白髪は、足で描くスタイルをとっていました。ただ足で描くというユニークさを強調するだけでなく、もう少しその手法や構図など細かな点に注目します。すると、驚くほど豊かな表現が見えてくることでしょう。(出品点数約 10 点)



白髪一雄 《天空星急先鋒》(1962 年)

5章 画面に見えるものと見えないもの

作品は、描かれているものがなによりも重要で、それ以外のものは必要ないという考え方があります。でも、その一方で、描かれてはいなくとも、暗示されているものや、見る側の想像によって補うことが求められている場合があります。ここでは、広い意味での絵画の内容について見ていきます。(出品点数約 10 点)



高松次郎 《影》(#394)
(1974–75 年・山村コレクション)

海外の近・現代彫刻／安藤忠雄コーナー（展示棟1階 展示室5）

オーギュスト・ロダンをはじめとする海外の巨匠による彫刻を展示します。また、当館設計家の安藤忠雄による震災復興プロジェクト等を紹介するコーナーも併設しています。
（彫刻の出品点数12点）



オーギュスト・ロダン《永遠の青春》（1884年）

近・現代の版画・日本画・彫刻（展示棟2階 展示室6）

今回は主に近・現代の版画を中心とし、それに屏風と日本の小彫刻を加えます。日本画、版画の一部は会期半ばで展示替えがあります。

（前期：3月27日（土）－5月16日（日）

後期：5月18日（火）－7月4日（日）

（出品点数約40点）



ジェームズ・アンソール《オステンドのフランドル通りの音楽隊》
（1980年）

小磯良平記念室（展示棟2階）

神戸生まれの小磯良平（1903-1988）は、近代洋画を代表する巨匠のひとりです。的確なデッサンとやわらかな色づかいの、気品あふれる人物画で知られています。ハイカラなセンスあふれる画風は、いかにも神戸の町にふさわしいものです。今回の展示では、初期の代表作《T嬢の像》をはじめとする肖像画、人物画を並べるほか、裸婦デッサンをまとめて紹介します。

（出品点数約20数点）

小磯良平《T嬢の像》（1926年・
武田繁子氏寄贈）



金山平三記念室（展示棟2階）

神戸生まれの金山平三（1883-1964）は、風景画の名手として知られる近代洋画の巨匠です。信州や東北をはじめ日本各地を写生に訪れ、落ちついた色づかいと巧みな筆さばきで、情感ゆたかに風景を描き出しました。今回の展示では、四面の壁を四季の各季節にあてて展示します。

（出品点数約20点）



金山平三《夏の海》（制作年不詳・三輪きみ氏寄贈）